

岩津ネギのブランド力向上を目指して

はじめに

岩津ネギは、朝来市の農家やJ A、市、県の関係機関が力を合わせて、産地育成に取り組み、現在の22haまで生産を拡大した。しかし、自家採種であるため、市場関係者より品質のばらつきが指摘されてきた。また、冬期の積雪によって葉茎が損傷し、出荷量の変動する原因になっていた。そこで、品質をそろえて安定的な出荷を行うため、優良系統品種の選抜と雪除け対策に取り組んだ。

ブランドカアップその1（優良系統確保に向けて）

2003年11月、優良系統の確保に向けて、生産者、関係機関等で「採種ほ設置検討会」を開催した。

生産者に対しては、岩津ネギの市場からの評価と採種ほの設置目的・方法を説明し協力を求めた。同年12月、採種用ハウス（200坪）を設置し、採集した優良形質株を植え付け、2004年～2006年の3か年、系統選抜を繰り返した。その結果、直売や贈答用として草丈の短い牛角系、市場出荷向きとして機械包装に適した長葉系の2タイプを選抜した。

今後は、朝来市岩津ねぎ生産組合（事務局：朝来市）の役員を中心に、採種母株の育成と種子の増殖作業を行っていき、2008年4月から新系統を柱とした産地育成を進めていく予定である。



図1 種取り用にネギ坊主を収穫

ブランドカアップその2（収穫時の大敵・雪対策）

2002年から安定出荷・品質向上を目指して、雪除け対策の実証を開始した。雪除け対策の条件は、簡易で低コスト、収穫作業の邪魔にならない、40cm程度の積雪の重みに耐えうる強度であることの3点が挙げられた。

現地実証を3年間実施してきた結果、三角屋根型と直管パイプ折り曲げの方式を採用した。三角屋根型は耐雪強度を備え雪除け効果が高い、一方の直管パイプ折り曲げタイプは、耐雪強度はやや劣るが防雪ネットがかけやすいなど設置が容易である。これらは、地域における積雪の多少と設置コストを勘案した使い分けをすすめている。

実証していく中では失敗事例もあったが、農家の創意工夫の結果、岩津ネギ版の雪除け対策が確立され、特に積雪の多い山東町を中心に導入を検討する農家が増えてきた。

今後の課題

今後は、伝統野菜「岩津ねぎ」の名声を確認なものにするためにも、優良種子の生産・普及体制の確立、雪除け栽培の推進を図り、品質安定に向け生産農家、関係機関が一つになり取り組んでいきたい。

吉川 玖仁子（和田山農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：079-672-6886）



図2 三角屋根型の雪除け